

エッセンシャル栄養教育論（第4版）[707910]

（第4版第3刷：2022年1月20日発行）

訂正／補足情報

頁	該当箇所	旧	新
4	右段、上から4行目	2018年より第3次食育推進基本計画が展開されている	2021年より第4次食育推進基本計画が展開されている
4	右段、下から11行目	青壮年期を対象とする生活習慣病の一次予防をめざした	青壮年期を対象とする生活習慣病の一次予防、二次予防をめざした
8	左段、上から12行目	●1990年代に入り低下の一途をたどる合計特殊出生率は、2005年に過去最低の1.26を示したが、翌年1.32に回復した。2013年には子育て支援対策も進み、1.43と1996年値に回復した。しかし、出生数は前年より7,400人減少した。これは、	●合計特殊出生率は、2005年には過去最低の1.26まで落ち込んだ。2015年には1.45まで上昇したものの、2019年は1.36を記録した。出生数をみると、2019年は86万5,000人ほどとなり、90万人を下回り、少子化の加速が鮮明になっている。出生数の低下は、
8	右段、下から6行目	6 健康日本21と栄養教育 ●21世紀の健康施策「健康日本21」は目標指向型健康増進対策であり、向こう10年間の目標値を9つの領域についてあげ、2013年より第二次施策が各地で展開されている（⇒巻末付録1参照）。依然として、野菜摂取不足や運動不足などの改善を呼びかけつつ、第3次食育推進基本計画と連動しながら共食などのキャンペーンも展開されている。また、社会環境の向上を掲げ、健康な生活管理ができることをめざす。 ●あらためて、人生80年にわたる	6 現在の健康施策 ●近年では、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式の定着やリモートワークの増加などにより、食生活にも変化が生じている。また、SDGsやパリ協定などの流れを受けて、食の持続可能性（サステナビリティ）への関心が高まっている。人々の健全な食生活の実現のみならず、適切な栄養・食生活を実現するための食環境の持続可能性を高めていくことも大切となる。 ●人生100年時代を迎え、
9	左段、COLUMN	第3次食育推進基本計画 第3次食育推進基本計画では、食をめぐる状況の変化を踏まえて、以下の重点課題5項目が掲げられている。 ①若い世代を中心とした食育の推進 ②多様な暮らしを支える食育の推進（新） ③健康寿命の延伸につながる食育の推進 ④食の循環や環境を意識した食育の推進（新） ⑤食文化の継承に向けた食育の推進（新）	第4次食育推進基本計画 国民の健康や食を取り巻く環境の変化、社会のデジタル化など、食育をめぐる状況を踏まえ、第4次食育推進基本計画では、基本的な方針として以下の3つを重点事項としている。 ①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進（国民の健康の視点） ②持続可能な食を支える食育の推進（社会・環境・文化の視点） ③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進（横断的な視点）
9	左段、下から7行目	●「特定健康診査・特定保健指導」が実施され、ポピュレーションアプローチを推進していこうとする現在、第3次食育推進基本計画にみられるように、さまざまな世代の人たちのニーズに沿った魅力ある楽しい栄養教育について評価研究を踏まえた方法論を構築し、家庭、学校、地域を結びつつ、産業や企業とも連携する栄養教育のネットワークをつくっていくことは、最優先されるべきこととなる。	●健康増進や疾病予防の取り組みを進めるにあたっては、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを効果的に組み合わせる必要がある。 ●ポピュレーションアプローチとは、対象を限定せず、集団全体のリスクを低減させるための取り組みを意味する。ポピュレーションアプローチは、教育や情報提供だけでは限界があるため、環境整備（制度化、法的規制、物理的な環境整備など）を併せて行うことが望まれる。 ●一方、ハイリスクアプローチは、高いリスクをもった個人や集団に向けたリスクを下げる取り組みである。たとえば、健診で糖尿病と診断された人に対する投薬などによる血糖管理の支援や、血糖管理のための栄養教育の実施などが該当する。
119	左段、下から9行目	30～39歳、40～44歳	35～39歳、20～24歳、40～44歳
119	左段、下から6行目	2017年	2021年
119	右段、上から1行目	●全出生数に対する低出生体重児（2,500g未満出生数）の割合は、男8.3%、女10.6%である（人口動態統計、2017年）。	●全出生数に対する低出生体重児（2,500g未満出生数）の割合は9.4%である（人口動態統計、2021年）。過去15年間、ほぼ横ばいである。日本は先進国の中でも、低出生体重児の割合が高い状況にある。低出生体重児の増加の要因としては、医学の進歩（早期産児の割合の増加）、多胎児妊娠、妊娠前の母親のやせ、妊娠中の体重増加抑制、喫煙などの因子が報告されている。
120	左段、下から4行目	「妊産婦のための食生活指針」（厚生労働省、2006年）	「妊娠からはじめる妊産婦のための食生活指針～妊娠前から、健康なからだづくりを～」（厚生労働省、2021年）（表2-3）

頁	該当箇所																
119	右段, 表 2-1 妊娠期の体格区分別推奨体重増加量	<p>以下の表に差し替え</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 妊娠期の体格区分別推奨体重増加量</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th data-bbox="582 286 756 320">妊娠前体格**</th> <th data-bbox="756 286 1023 320">BMI kg/m²</th> <th data-bbox="1023 286 1286 320">体重増加量指導の目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="582 320 756 365">低体重</td> <td data-bbox="756 320 1023 365">< 18.5</td> <td data-bbox="1023 320 1286 365">12 ~ 15 kg</td> </tr> <tr> <td data-bbox="582 365 756 409">普通体重</td> <td data-bbox="756 365 1023 409">18.5 ≤ ~ < 25</td> <td data-bbox="1023 365 1286 409">10 ~ 13 kg</td> </tr> <tr> <td data-bbox="582 409 756 454">肥満 (1 度)</td> <td data-bbox="756 409 1023 454">25 ≤ ~ < 30</td> <td data-bbox="1023 409 1286 454">7 ~ 10 kg</td> </tr> <tr> <td data-bbox="582 454 756 533">肥満 (2 度以上)</td> <td data-bbox="756 454 1023 533">30 ≤</td> <td data-bbox="1023 454 1286 533">個別対応 (上限 5 kg までが目安)</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 「増加量を厳格に指導する根拠は必ずしも十分ではないと認識し, 個人差を考慮したゆるやかな指導を心がける」産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 CQ010 より</p> <p>** 体格分類は日本肥満学会の肥満度分類に準じた。 (日産婦誌, 73(6): 642, 2021 より)</p>	妊娠前体格**	BMI kg/m ²	体重増加量指導の目安	低体重	< 18.5	12 ~ 15 kg	普通体重	18.5 ≤ ~ < 25	10 ~ 13 kg	肥満 (1 度)	25 ≤ ~ < 30	7 ~ 10 kg	肥満 (2 度以上)	30 ≤	個別対応 (上限 5 kg までが目安)
妊娠前体格**	BMI kg/m ²	体重増加量指導の目安															
低体重	< 18.5	12 ~ 15 kg															
普通体重	18.5 ≤ ~ < 25	10 ~ 13 kg															
肥満 (1 度)	25 ≤ ~ < 30	7 ~ 10 kg															
肥満 (2 度以上)	30 ≤	個別対応 (上限 5 kg までが目安)															
120		<p>以下の表を新規追加 (※以後, 表番号が1つずれる)</p> <p style="text-align: center;">表 2-3 妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠前から, バランスのよい食事をしっかりととりましょう ・ 「主食」を中心に, エネルギーをしっかりと ・ 不足しがちなビタミン・ミネラルを, 「副菜」でたっぷり ・ 「主菜」を組み合わせでたんぱく質を十分に ・ 乳製品, 緑黄色野菜, 豆類, 小魚などでカルシウムを十分に ・ 妊娠中の体重増加は, お母さんと赤ちゃんにとって望ましい量に ・ 母乳育児も, バランスのよい食生活のなかで ・ 無理なくからだを動かしましょう ・ たばこやお酒の害から赤ちゃんを守りましょう ・ お母さんと赤ちゃんのからだと心のゆとりは, 周囲のあたたかいサポートから </div> <p style="text-align: right;">(厚生労働省, 2021 年 3 月)</p>															

(2022.11.30.)